

(別記様式)

令和6年度 府立中丹支援学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>学校教育目標 ～いどむ つながる かがやく～</p> <ul style="list-style-type: none"><li>主体的に学ぶことも含め、未来に向かって挑戦してほしい</li><li>いろいろな人とともに歩んでほしい</li><li>幸福な生き方をつくりだすことで自分らしい輝きを増してほしい</li></ul> <p>このような児童生徒を育てるために、小・中・高の系統性を持たせた指導にあたる。</p> <p>小学部では基礎となる力を身に付ける「基礎・意欲」を大切に。</p> <p>中学部では身に付けた力を広げる、深める「発展・可能性」の段階へ。</p> <p>高等部では自立や社会参加に必要な力へと高める「統合・個性」へと発展させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>衛生委員会とも連携を図り、働き方についてのアンケートから本校の現状を把握できた。今後は「働きがいのある職場」にするための具体的な方策が求められる。</li><li>学校運営協議会で委員より様々な意見をいただき、地域とともに歩むためのヒントを得ることができた。</li><li>コロナの5類移行後は、コロナ禍に進んだICT、アプリの活用も行いながら様々な取組を進めることができた。今後もコロナ前にすべて戻すのではなく、スクラップアンドビルドで考えていく。</li><li>40周年記念の取組をきっかけにして学校HPを充実させることができ、地域への発信や理解啓発の推進が図れた。</li><li>「思考力の育成」をテーマにした研究活動をとおして、系統性のある授業づくりについての検討ができた。今後も学校教育目標の実現を目指す授業づくりを行っていく。</li><li>研究部の活動や校内の研修等から学び、授業改善が一定進んできているが、今後もすべての教員が専門性のある指導ができるよう、継続して学ぶ必要がある。</li><li>タブレット端末を使用した授業づくりがさらに進んだ。ICT機器を単に使用するだけでなく、情報活用能力が向上するためのICT機器の使用として、授業づくりを行う必要がある。</li><li>地域と連動した取組や、外部と関係する取組に積極的にチャレンジし、地域とのつながりが深まった。今後は地域とのつながりを一過性のものとせず、定着させていくことが必要である。</li></ul>	<p>学校経営</p> <ol style="list-style-type: none"><li>地域と連携した教育 地域の関係機関との連携を図り、体験的な学習や職場体験・実習等の機会拡大を図り、児童生徒の力を伸ばす</li><li>学校運営協議会との連携 学校運営協議会と連携し、特色ある学校づくり、地域とともに歩む学校づくりのための、具体的な方策を検討、実施する。</li><li>学校からの発信・理解啓発 学校の取組を各メディアに発信することにより、学校や本校の児童生徒のことをより多くの人に知ってもらい、特別支援教育の発展、理解啓発に寄与する。</li><li>「働き方改革」から「働きがい改革」へ。 「働き方改革」の成果をもとに、時短視点だけでない一歩進んだ「働きがい改革」への意識改革や具体的な取組を検討・実施していく。</li></ol> <p>教育活動</p> <ol style="list-style-type: none"><li>12年間の系統性と障害特性に応じた指導の充実 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。</li><li>「社会に開かれた教育課程」の実現 地域社会とつながり、連携・協同しながら、児童生徒の力や可能性を積極的に発信し、理解啓発を図る。</li><li>学校生活やICTを活用した学習指導の充実 学んだことを生かし、新たな価値を生み出しながら自分らしく輝いた生活を送る児童生徒の育成を目指す。</li><li>スポーツ・芸術文化活動の積極的な推進 児童生徒の可能性や能力を最大限に伸ばするとともに豊かな人間性を育む。</li></ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
学校経営	地域と連携した教育	地域の関係機関との連携を図り、体験的な学習や職場体験・実習等の機会拡大を図り、児童生徒の力を伸ばす	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流だけでなく、地域とつながる取組に多く取り組んだことで共同の意識が高まった。今後は共同学習の具体的な方策も模索していく。</li> <li>学校運営協議会で委員より様々な意見をいただき、地域とともに歩むためのヒントを得ることができた。</li> <li>地域連携部が中心となってホームページやインスタグラム等を充実、活用しながら、積極的に地域への発信、理解啓発の推進が図れた。</li> <li>「働きがい」についてのアンケートから本校の現状を把握し、全国平均よりも良い結果を得ることができた。働きやすさと働きがいのバランスを取りながら、継続して魅力ある学校づくりに努める。</li> </ul>
	学校運営協議会との連携	学校運営協議会と連携し、特色ある学校づくり、地域とともに歩む学校づくりのための、具体的な方策を検討、実施する。	B		
	学校からの発信・理解啓発	学校の取組を各メディアに発信することにより、学校や本校の児童生徒のことをより多くの人に知ってもらい、特別支援教育の発展、理解啓発に寄与する。	A		
	「働き方改革」から「働きがい改革」へ	「働き方改革」の成果をもとに、時短視点だけでなく一歩進んだ「働きがい改革」への意識改革や具体的な取組を検討実施していく。	B		
教育活動	12年間の系統性と障害特性に応じた指導の充実	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階別の研究活動をとおして、12年間の学びの系統性について意識することができた。今後も継続して学ぶ必要がある</li> <li>地域と連動した取組や、外部と関係する取組に積極的にチャレンジし、地域社会とのつながりを意識した授業づくりが進んでいるが、今後も教科の系統性や学校教育目標の実現を目指す授業づくりを行っていく。</li> <li>タブレット端末を使用した授業づくりがさらに進んだ。ICT機器を単に使用するだけでなく、情報活用能力が向上するためのICT機器の使用として、授業づくりを行う必要がある。</li> <li>多くのトップアスリート技やプロの芸術に触れることで、人間性が豊かに高まり、学習意欲の向上にも寄与した。</li> </ul>
	「社会に関われた教育課程」の実現	地域社会とつながり、連携・協同しながら、児童生徒の力や可能性を積極的に発信し、理解啓発を図る。	B		
	学校生活やICTを活用した学習指導の充実	学んだことを生かし、新たな価値を生み出しながら自分らしく輝いた生活を送る児童生徒の育成を目指す。	B		
	スポーツ・芸術文化活動の積極的な推進	児童生徒の可能性や能力を最大限に伸長するとともに豊かな人間性を育む。	A		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標の具現化に向けた取組を、地域とのつながりを大切にしながら進めている。</li> <li>課題を自分で考え、自分で解決できるような力や周りに相談する力が必要になってくる。</li> <li>今後も学校教育目標の中身の浸透・周知が必要である。</li> <li>人の役に立つ人材を育てていただいていることがよい。この学校がこの地域にあって良かったと、継続して思ってもらえるような学校にしてほしい。</li> </ul>
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に取組企画を発信し、地域の方も参加するような取組を行っていくことが大切。</li> <li>一般の方が実際に学校に来て体験できるような取組や学校見学の機会があればよい。</li> <li>地域の学校との交流を「交流」だけでなく「共同学習」の形でも考えていくことが必要。</li> <li>企業等とつながるときに、さらに子どもたちの姿（実態や特性）が見えてくるようなPRをすることが大切。</li> <li>進路は仕事だけでなく生活とセットで考えていくことが必要である。機会ごとに様々な経験ができるようにしてほしい。</li> </ul>
-----------------------	---